

2-2 景観施策の効果の評価に関する調査

2-2-1 アンケート概要

(1) 目的

- それぞれのテーマに沿った景観施策を実施した時の効果を仮想市場法（CVM：Contingent Valuation Method）により外部経済を計測することにより評価する。
- これに基づいてそれぞれのテーマに沿った施策の有意性や優先順位を検討する。

※仮想市場法

市場で金銭取引されていない価値について、支払い意志額（WTP）（または受け入れ補償額（WTA））を尋ねることにより直接的に評価する手法。

※外部経済

施策の実施により直接的な受益者以外の人や周辺の環境などに及ぶプラスの効果や影響。マイナスの効果や影響は外部不経済と呼ばれる。

(2) 調査方法

- 20歳以上の男女500人を対象とし、地域に偏りがないように無作為抽出を行った。
- 趣旨文とアンケート用紙を郵送、同封した返信用封筒にて回答したアンケートを返送してもらった

○評価対象及びシナリオ

景観施策展開の主なテーマごとに評価する。

調査対象者に施策の内容や効果を理解してもらうため、施策のシナリオ（現状の問題点、施策内容、期待される効果）をわかりやすい形で示す。

○回答方法など

支払い意志額を示してイエスかノーを答える二項選択法とし、回答の信頼性を高めるために質問を2回（ダブルバウンド）とする。

支払いの形態：三田駅周辺、歴史的街なみ など → 年払いの追加税
：ニュータウン など → 住宅販売価格への上乗せ

○回答の集計と便益の算定

回答を集計して平均値を算出し、平均値に受益者数を乗じて便益を算定する。

受益者数：三田駅周辺、歴史的街なみ など → 全世帯数

(3) 回収状況

○配布数 500 通に対して、全回答数は 176 通であった。(回収率 35.2%)

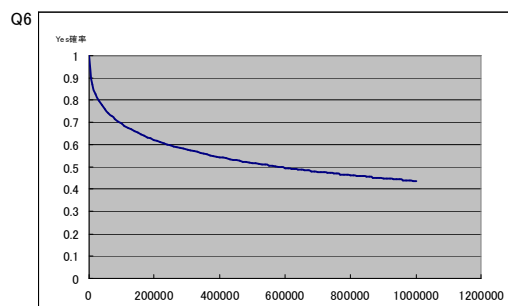
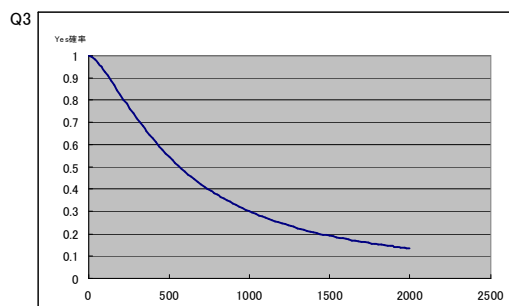
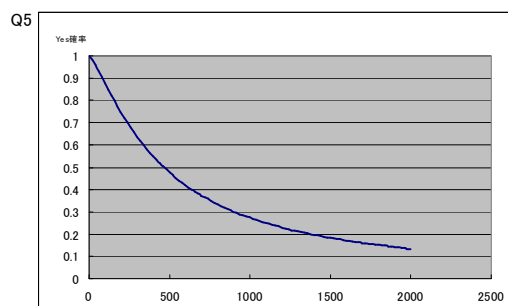
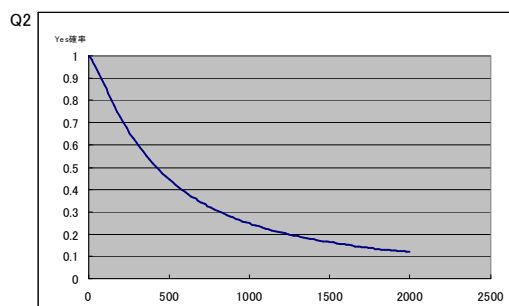
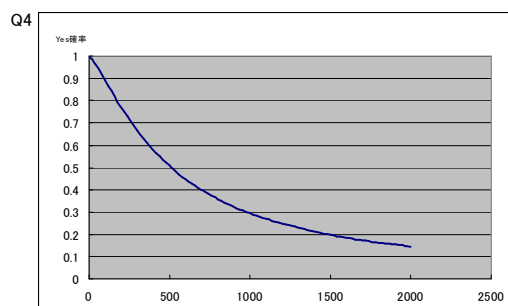
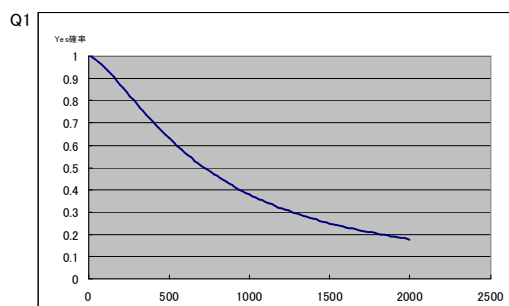
(4) 調査期間

○アンケート送付 平成 19 年 5 月 10 日

○アンケート締め切り 平成 19 年 5 月 23 日

2-2-2 アンケート結果

	回答(人)					推定支払意思額(円)		
	YY	YN	NY	NN	計	中央値	平均値	
							縮きりなし	最大提示額で 縮きり
Q1 住宅地での魅力的な街なみづくり	27	48	33	68	176	719	1,753	919
Q2 三田駅周辺での玄関口にふさわしい景観づくり	18	31	28	99	176	422	1,582	678
Q3 歴史的な街なみの保全と形成	20	39	35	82	176	567	1,398	790
Q4 市街地の背景となる山なみ景観の保全	20	43	23	90	176	512	1,870	765
Q5 農地や里山と一体となった集落景観の保全と形成	20	35	27	94	176	465	1,795	724
Q6 住宅地での魅力的な街なみづくり(その2)	76	21	7	72	176	579,938	∞	547,777



施策効果に対する評価は以下の通りとなっている。

景観形成の テーマ	施策効果に対する評価			
	支払い 意思者の 割合	支払い 意思者の 割合の順位	支払い意思額	支払い意思額 に基づく 評価額の順位
住宅地での魅力的な 街なみづくり	61.9%	1	28,853,470 円/年	1
歴史的な街なみの 保全と形成	53.4%	2	22,753,710 円/年	2
市街地の背景となる 山なみ景観の保全	49.4%	3	20,546,560 円/年	3
農地や里山と一体となった 集落景観の保全と形成	47.2%	4	18,660,450 円/年	4
三田駅周辺での玄関口に ふさわしい景観づくり	43.8%	5	16,934,860 円/年	5